



東小だより

学校だより 5月号

R3. 4. 30

昭島市立東小学校

校長 東口 孝正

自分を認められ、自分も相手も大切にできる東っ子の育成

副校長 田村 秀明

風薫る、さわやかな季節を迎えました。草花が色鮮やかになり、校庭からは元気に体を動かす子どもたちの声が聞こえてきます。4月には、保護者会やセーフティ教室（授業参観）、家庭訪問・個人面談など、令和3年度の始まりにあたって、多くの保護者様にお会いすることができました。学校を支え、子どもたちを見守り、応援してくださっていることを改めて感じる機会となりました。東小の子どもたち、東小の教職員、東小の保護者・地域の皆様と、また新たな気持ちで



色鮮やかに咲いたツツジと校舎

スタートできたことをとても嬉しく思っています。本校に着任してから3年目になりました。子どもたちの安全・安心、成長に重きを置いて学校経営を進める東口校長先生の補佐役を担い、「みんなで、みんなが楽しい学校づくり」のために力を出し合える、チーム東小学校として取り組んで参ります。

さて、4月から金曜日の朝、隔週のペースでクラス遊びを始めました。遊びの内容について話し合えば、意見に違いが出ることがあるのは当然です。些細なことでも、皆が気持ちよく納得したり、妥協・許容したりできるように話し合うには、自分の思いや考えが心理的に否定されずに、安心して話すことができる風土を創っていく必要があります。

本校では、今年度より「自分を認められ、自分も相手も大切にできる東っ子の育成」～学級活動、児童会活動の実践を通して～という主題をたてて、特別活動の研究を新たに始めたところです。望ましい合意形成の学びは、望ましい集団の中での実践的な話し合い活動を通して行われるものです。子どもも大人も、まずは相手の意見や考えを否定せずに傾聴し、自分と相手の両方を尊重した対話となることを目指していかなくてはなりません。話し合いの失敗を恐れずに、失敗をつつむ優しさ、温かさ、思いやり、心遣い、しなやかさ、相手の立場に立って考えてみる。子どもたちに思いやりをもって関わる。こんな姿勢が、まずは、大人である私たちに求められます。どの子どもも、磨けば光る原石。大切な東小の宝であり地域の宝です。子どもたちが自分も相手も大切に思いながら関われるようにしていくためには、ご家庭にも協力いただくことが必要になります。以前、高田 敏子さんの「水のこころ」という詩を本誌で紹介したことがあります。その詩中の一文に「そおっと 大切にー」というとても大切な部分があるのですが、そんなことも意識して、日々、子どもたちと関わっていきたくと思います。

保護者・地域の皆様におかれましても、東小の子どもたちのために、チーム東小の一員として、今年度のご理解・ご協力をいただきたく、お願い申し上げます。